**■上島鬼貫　　俳人。近年芭蕉に並ぶ評価を得て"西の巨匠"に。弟子をとらず孤高保ち，俳論「独ごと」を遺した。**
うえしまおにつら
清帝国始・・1661＝　　摂津国河辺郡伊丹郷で，藤原秀郷を祖とする武士の流れで清酒"三文字"の醸造元{油屋}の一族上島宗春の三男に生まれる。名は宗邇，通称は与惣兵衛，幼名は竹松。

酒井忠清大老1666＝ 5歳：

足利学校再建1668＝ 7歳：初めての句'こいこいといへど蛍がとんでゆく'を作り，**_早くも俳諧の才能を発揮，**

・・・・・・1670＝ **9歳：**

三井越後屋・1673＝12歳：**_松江維舟に入門，**
・・・・・・1674＝13歳：**_池田宗旦が伊丹で開いた俳諧塾{也雲軒}にも学び，**

・・・・・・1676＝15歳：この頃には，**_宗因にも傾倒，維舟編「武蔵野」に上嶋竹松丸号で入集，**
紀貫之を念頭において鬼貫号を用い，
藤十郎登場・1678＝17歳：**＊宗旦編「当流籠抜」に初めて鬼貫号を用いて入集，伊丹風俳諧の若手俊英として活躍し，**
越後騒動・・1679**＝18歳：**
徳川綱吉将軍1680＝19歳：維舟が死去。「誹道恵能録」「俳譜無分別七吟七百韻追加親仁異見」刊行。**_伊丹を訪れた宗因から評価され，**
天下一禁止・1681＝20歳：「西瓜三ツ」刊行。
好色一代男・1682＝21歳：西山宗因が死去。**_大坂に出る。**
八百屋お七・1683＝22歳：「三人蛸伊丹三百韻」刊。**_遊戯的・享楽的な伊丹風に疑問を抱いてノイローゼになり，**
堀田正俊暗殺1684＝23歳：「有馬日書」「かやうに候ものハ青人猿風鬼貫にて候」刊。**_有馬温泉で静養などするうち，**
出世景清初演1685＝24歳：**_'誠のほかに俳諧なし'の境地に達する一方，武家の名門を意識して，武士となることを熱望し，**
・・・・・・1686＝25歳：この年，芭蕉が開眼。**_初めて江戸に下って小出伊勢守家への出仕するが，不首尾に終り，帰坂。**
生類憐令始・1687＝26歳：**_再び江戸に下って，筑後国三池藩主に仕えるが，**
日本永代蔵・1688**＝27歳：**勘定専門の渡り奉公武士松波勘十郎と対立して波乱の日々を送り，
・・・・・・1689＝28歳：この年，芭蕉が「おくのほそ道」の旅に出る。**＊致仕し，大坂に戻ると，江戸下向前に富士を詠み込んだ句を土産に約束していた伊丹の病床の俳友が死去しており，その墓前で約束の'にょっぽりと秋の空なる富士の山'を捧げ代表句となる。**
湯島聖堂・・1690＝29歳：市中より閑静な福島村汐津橋のほとりに移住。おそらく芭蕉の情報をもたらした之道と両吟表六句興行。**_'誠のほかに俳諧なし'を実現したに「大悟物狂」を刊行し，架空の紀行文「禁足旅記」を含む「犬居士」も刊行。**
別子銅山始・1691＝30歳：父が死去。**_大和国郡山藩に仕え，大坂役目となる。**
世間胸算用・1692＝31歳：「食(めし)」刊。**_家来加藤左太平に狼藉を禁じたところ切掛ってきたため切倒す事件も，**
奥の細道・・1693＝32歳：この年，西鶴，池田宗旦が死去。
芭蕉+師宣没 1694＝33歳：この年，芭蕉が死去。病臥。
生類憐令頂点1695＝34歳：長子永太郎が誕生。致仕し，伊丹に帰る。
・・・・・・1697**＝36歳：**
吉保大老格・1698＝37歳：仏兄と改号し，
・・・・・・1699＝38歳：記念の撰集「仏の兄」を刊行。**_伊丹領主の近衛家から家来分にとりたてられる。**
・・・・・・1700＝39歳：**_長男が夭折，伊丹の墨染寺の墓に葬り，'土に埋て子の咲花もある事か''此秋は膝に子のない月見かな'。**
松の廊下事件1701＝40歳：惟然，子葉(大高源五忠雄)が来訪。
赤穂浪士討入1702＝41歳：この年轍士が刊行した「花見車」の中で鬼貫に言及。
赤穂浪士切腹1703＝42歳：母が死去。京に移住。惟然，団水が来訪。「酸鼻集」刊行。
御蔭参流行・1705＝44歳：次男が誕生。宗旦十三回忌集として「追善逃亭伊丹希李」を刊行。
・・・・・・1706**＝45歳：**三男が誕生。支考による東山の芭蕉追悼万句興行に出座。
ｼﾄﾞｯﾁ拘束・ 1708＝47歳：**_越前国大野藩に仕えるため同地に赴き，京都屋敷の留主居役を勤めることになる。**
徳川綱吉没・1709＝48歳：初懐紙「いねあげよ」を刊行。
・・・・・・1710＝49歳：芭蕉十七回忌に追善の句文をなす。

乾山陶器店・1712＝51歳：句集の相談に訪れた伊予国の羨鳥に'橘よ今をむかしの心種'の句を与える。

絵島事件・・1714＝53歳：伊勢国の涼菟と会う。江戸下向。月尋編「伊丹発句合」に跋を寄せる。
西洋紀聞・・1715**＝54歳：**帰京。
徳川吉宗将軍1716＝55歳：
おそらく，**_越前国大野藩の京都屋敷の留主居役を最後に武家奉公も終り，**
御蔭参流行・1718＝57歳：大坂に移住。有賀長伯より古今集俳諧歌の伝授を受けて影響され，**＊優れた俳論書で第一級の随筆文学でもある「独ごと」を刊行。**
・・・・・・1719＝58歳：病臥。

火の見櫓制・1723＝62歳：この年，森本百丸による鬼貫を含む伊丹俳人七十七人の伝「在岡俳譜逸士伝」が成る。。
近松没・・・1724**＝63歳：_大坂大火で自宅が焼け，一時伊丹に疎開。鵯塚で吟じた'鵯や世の轉りも石の花'はこの時の句。**

・・・・・・1727＝66歳：「仏兄七久留万(しくるま)」成る。

・・・・・・1730＝69歳：交流のあった大徳寺273世大心義統和尚が死去。七十賀集「千歳眉寿冊」成る。

享保大飢饉・1732＝71歳：雲鹿編「名の兎」に跋を寄せる。この年までの句を収録した「七くるま拾遺」。
・・・・・・1733**＝72歳：**薙髪して即翁と改め，
・・・・・・1734＝73歳：妻が死去。

・・・・・・1737＝76歳：有賀長伯が死去。**＊鬼貫号で歳旦句'盃や屠蘇の海辺に跡の菊'を詠む。「続七車」成る。李卿編「狂歌種ふくべ」に序と狂歌一首を寄せ，**
・・・・・・1738＝77歳：**_没した。**
自伝「藤原宗邇伝」を遺し，30年後には炭太祇考訂「鬼貫句選」が刊行される。

岩波文庫「鬼貫句選･独ごと」，「人づくり風土記(兵庫)」，「没年日本史人物事典」，平凡社百科事典，